

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	松岡 優介 (まつおか ゆうすけ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 11 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 25 回日本感性工学会大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	松岡優介、山下愛博、菊池英明
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	小説文における曖昧性の定量的操作方法の検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>背景・目的</p> <p>本研究は、良質な読書体験を与える小説の執筆方法を定量的に解明することを目指す研究の一環である。ここで、読書体験において没入体験は重要な要素であり、曖昧性は没入体験に影響を与えることが複数の実践家により示唆されている。そのため、小説文の曖昧性と没入体験の関係に注目した。本研究では、小説文の曖昧性を定量的に操作可能とすることを目的とした。定量化された既存の類似概念である単語心像性を用いて小説文の曖昧性を操作できるかを検討した。</p> <p>方法</p> <p>単語心像性を操作した文を用意し、文の曖昧性を被験者に評価させることで、単語心像性と文の曖昧性の関係を明らかにする。小説から抜粋した単文について、単語心像性が異なるよう同じ 1 単語を差し替えた 2 文を作成した。(原文 1 文+作成文 2 文) × 122 = 366 文をランダム提示し、曖昧性を 7 件法で 20 名に評価させた。評価基準は、7 が「最も曖昧であり、さまざまな状況イメージが容易に当てはまる」であり、1 が「最も曖昧でなく、当てはまる状況イメージが限定される」とした。</p> <p>結果</p> <p>原文が同じ 3 文毎に単語心像性の低中高で群を分け、各群で曖昧性評価に差があるかフリードマン検定と多重比較を行なった結果、低群-中群間と低群-高群間で有意差が見られた (低群-中群で $p < .05$、低群-高群で $p < .05$、中群-高群で $p = 1.00$)。また、単語心像性低群の曖昧性評価の平均は、中群と高群の曖昧性評価の平均に比べてやや高かった (低中高群の曖昧性評価の平均は順に 3.63、3.55、3.55)。以上の結果より、ある文について、単語心像性が低い 1 単語をより単語心像性の高い類語に差し替えた場合、文の曖昧性が低くなる可能性が示された。</p>	

※無断転載禁止